

拠点形成研究交流報告：アルゼンチン拠点 CERELA-CONICETを訪問し、セミナーおよび研究交流を実施

北澤春樹CFAI副センター長と大学院生2名(井形愛美さん、佐藤 菜さん)が、アルゼンチン国立乳酸菌研究所(CERELA-CONICET、アルゼンチン研究拠点)を訪問(2017年10月25日～11月6日)し、アルゼンチン拠点メンバー他と研究交流を行いました。北澤副センター長は、今回で6回目の訪問になりますが、今回は、CERELA-CONICETに所属する研究者でツクマン大学医学部感染症学教室の教員を併任しているMaria Guadalupe Vizoso-Pinto博士の企画で、「Microbiota and Health - Immunobiotics as immune-health factors - 」と題したセミナーを行いました。CERELA-CONICETやツクマン大学医学部の研究者および学生に興味関心を持って頂きました。翌日には、セミナー内容について、ツクマンで有名なメディアに取り上げられ報道されたことから、その興味関心の高さを実感することができました。また、大学院生2名は、同研究室内ゼミでそれぞれ共同研究に関する進捗について報告すると共に学生交流も行うことができました。拠点形成事業の初年度にアルゼンチン拠点を訪問し、「乳酸菌の粘膜免疫調節機構」に関する共同研究の進捗と、具体的な計画および将来性についてアルゼンチン拠点メンバーと情報を共有することができました。さらに、Julio Villena博士と現在執筆中ならびに執筆予定の国際共著論文に関する確認もでき、今後の共同研究と若手研究者育成が大いに期待されました。

